

社長の
本棚

井之上パブリック
リレーションズ
(東京都新宿区)
鈴木孝徳社長

対立する二局をつないだ人たち

この本の舞台となってい
るのは1950年代。戦後
混乱期にあたります。当時
は保守と革新、労働者側と
使用者側といった対立構図
が鮮明で、両局をつなぐ共
通基盤がなかったよう
です。そのような対立関係に
ある人々の溝を埋める、橋
渡し役的存在として著者の
アントワニスル氏が活
動し、立場を超えた信頼関
係を生み出していくエピソードが数多く紹介されてい
ます。歴史の表舞台には出
ないものの、今に至る日本
の針路を決めた各界の先人
たちの国際的な活動の交流
記です。戦後日本の奇跡的
な復興と高成長の原動力と
なった、民主的な労使協調
路線をめぐる当時の動き

を、興味深く読みました。
訳者である参議院議員の
藤田幸久氏が主催する勉強
会に参加した時に、この本
を知りました。藤田氏は国
難に対して、党派を超えて
取り組んだ指導者たちの実
像を伝えたいと思ったそう
です。PRの仕事をする上
で、「倫理観」「双方向性
コミュニケーション」「自

己修正機能」の3つを意識
しているのですが、本の内
容と共通する部分が多いと
感じています。

現代の日本では、東日本
大震災や福島原発事故に
より、長い間、信仰されて
きた科学技術主導の価値観
が大きく変化しました。加
えて、インターネットやソ
ーシャルメディアの普及に
より、これまで人類が経験
したことがなかったような
スピードで情報環境が変化
しています。
政治に目を向けると世界
各国でポピュリズムが台頭
し、日本においては中国、
北朝鮮、ロシアとの関係は
混とんとしています。この
ような時代を生きるわれわ
れにとって、かつて大きな
社会の溝を埋めるために、
奔走した先人の仕事を知る
貴重な1冊だと感じていま



日本の進路を決めた10年
著者：パスル・アントウ
ニスル
訳：藤田 幸久
1990年 ジャパンタイムズ
MRA (Moral Re-Armament、
道徳再武装) の日本駐在代
表として、日本の国際社会
復帰に尽力した著者の在日
体験記。